２２　ブナ植樹祭参加者アンケートに対する考察

弘前営林署　白戸副康
木村文男
山内　力
桜井常彦
内海　和徳
（造林課）

１　はじめに

近年の自然保護の高まりの中でブナ林の水源をかん養する働きや、ブナ林自体の動植物の多様性等からブナ林が見直されている。特に当署の場合、ブナ原生林を横断する予定であった青秋林道の工事の中止や国の天然記念物であるクマゲラが見つかったことから、「白神のブナ原生林」として全国に知られるようになった。

このような経緯があることから、ブナの植樹という全国でもめずらしい植樹祭がブナ植樹祭実行委員会主催、地元役場と当署の協力により当署管内で行われた。「白神の原生林」というネームバリューと今回で２回目ということもあり、植樹祭参加者は関東を中心として全国から集まった。

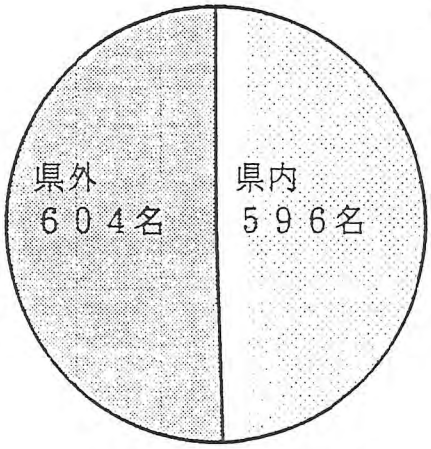
今回、ブナ植樹祭実行委員会によって植樹祭参加者のアンケートが集計され、自然に対する考え方及び国有林に対する認識など興味深い内容であったので、今後の自然保護に対する国民と国有林との接点を見出していくための参考になるのではないかと思い考察を試みた。

２　ブナ植樹祭について

植樹祭の行われた場所は、図－１（省略）を見て分かるように弘前から南西に約３９Ｋｍの所で秋田との県境に近い所である。具体的にブナを植樹した場所は、林道の側の漸伐跡地（湯の沢国有林１１８い林小班内）であり、２ｈａ程度の箇所に苗高４０～５０㎝位の苗木を７，０００本植樹した。

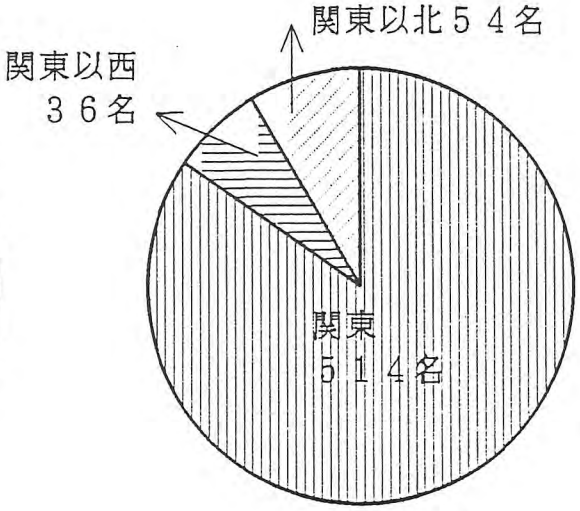
参加者は図－２のように合計で１，２００名であり、参加者の多くが県外、特に首都圏から多く全国に亘っている。このことは白神山地が自然環境保全地域に指定が決定したこと、平成４年が地球環境年であること等によるものだと考えられる。また、そのことの裏付けとして「ブナの里親になりませんか」のキャッチフレーズで「１口千円で１本のブナの苗木を」とブナ林の育成資金募集を行った結果、ブナの里親の応募者は昨年の３倍近くの２、１００名に達し、集まった育成資金は昨年の約９倍の１，４００万円に達しているということである

図－２　植樹祭参加者数



合計１，２００名

図－３　県外参加者数



合計６０４名

３　アンケート結果について

まずアンケート回答者のフェイスシートですが、表－１のように女性が約６５％を占めている。また、年齢については、１０代は埼玉県の高校生５５名が修学旅行の一環として参加していることから約２０％になっていいるが、４０～６０代で半分以上になっている。

住所では、関東が最も多く、東京を含めると８０％にも及んでいる。職業では、会社員、公務員、主婦で７５％を占めている。

総じて見ると、４０～５０代の主婦が最も多いと考えられます。このことから、現在４０～５０代の主婦の方々が自然環境問題に最も関心を持っているのではないでしょうか。

フェイスシート

表－１　性別

項　　目	回　答　者　数
男　　性	８６（３５、１％）
女　　性	１５９（６４、９％）

表－２　年齢

項　　目	回　答　者　数
１０代	４９（１９、８％）
２０代	２２（８、９％）
３０代	２０（８、１％）
４０代	５０（２０、２％）
５０代	５６（２２、６％）
６０代	３８（１５、３％）
７０代	１２（４、８％）
８０代	１（０、４％）

表－３　住所

項　　目	回　答　者　数
県内	１９（７、７％）
北海道	２（０、８％）
東北	１０（４、０％）
関東（東京除く）	１１３（４５、６％）
東京	８９（３５、９％）
関東以西	１１（４、４％）
無回答	４（１、６％）

表－4　職業

項　　目	回　答　者　数
農林水産業	7（2、8％）
商工・サービス業	8（3、2％）
会社員・公務員	75（30、2％）
主婦	77（31、0％）
学生	33（13、3％）
無職	21（8、5％）
その他	24（9、7％）
無回答	3（1、2％）

（アンケートA，A´について）

「ブナ植樹祭の感想について」ですが、有意義だったと答えた方が約半分いる。しかし、その他の感想がこのようにあり、ブナの伐採という行為を批判している声もあり、まだまだ国有林の施業があまり知られていないようである。特に3、4、5の意見もあるので、私達国有林サイドでは機会あるごとにＰＲ活動をしていかなければならないと考える。

（アンケートB，B´について）

次に、「ブナあるいは青森の自然についての感想」についてですが、やはり保護しなければならないという考えではあるが、保護一辺倒ということではなさそうです。保護・育成そして活用ということのようです。

また、このようにブナ及びブナ林について、もっといろいろと勉強したいという感想もみうけられる。

（アンケートCについて）

次に、「ブナ林の今後についての意見」ということですが、やはりここでも間接的に営林署批判が見られる。また、2のような貴重な意見も見逃せない。

（アンケートＤについて）

次に、「資源・観光などについて」ですが、観光はほどほどにした方がよいといった意見が集約される。一方、道路等開発のための伐採も許せないといった厳しい意見もある。

アンケート抜粋

Ａ　ブナ植樹祭の感想について（有効回答数２４３）

１	楽しかった	９４	（３８、７％）
２	おもしろかった	３９	（１６、０％）
３	すばらしかった	３２	（１３、２％）
４	有意義だった	１１３	（４６、５％）
５	期待外れだった	１４	（５、８％）
６	特に感想はない	６	（２、５％）
７	その他	６０	（２４、７％）

Ａ′　その他の感想（抜粋）

１　なぜ成長したブナを伐採し、露地にまた苗木を植えるか説明がほしかった。

２　続けるべきでは…と割り切れない気持ちが強かった。

３　国（営林署）が伐採した後を民間の基金を募って植樹しなければならない環境、自然保護行政の貧困さが情けないが、理屈抜きでこういうことをやって変えていくしかないと思う。

４　営林署が荒らした後に、全国的良心で植樹することについての複雑さ。

５　営林署の手伝いのようであり、後始末に利用された感。

Ｂ　ブナあるいは青森の自然についての感想（有効回答数２４３）

１	何よりも保護を優先	４７	（１９、３％）
２	保護と同時に育成	１１４	（４６、９％）
３	保護・育成と活用のバランス	９６	（３９、５％）
４	観光あるいは資源として活用する	１４	（５、８％）
５	わからない	３	（１、２％）
６	その他	３９	（１６、０％）

B′ その他の感想（抜粋）

1　図書館でブナの本を借りたりして学習して来た。もっと情報を聞かせてほしい。

2　ブナ林をこれ以上少なくしないでほしい。便利さよりも１００年、２００年経てやっと大木になるブナをどうか１本でも切らないでほしい。

3　生態系尊重の精神が美しい自然を残す決め手です。こんな乱暴な道を作り、排気ガスと土足で踏み込む人間の有形無形の暴力で荒廃の一途をたどるでしょう、尾瀬のように。つまらない理屈をつけてブナの木を切るのはやめてください。クマゲラが絶滅しないように。青秋林道のトラクタ１台通るほうがよかった。

4　ブナの原生林に触れるのが目的であったが、広葉樹林その他の木々、草々が美しかったし、図鑑とは違った実施であるため、木々の名前や草々の名前等係員の方に教えてもらいたかった。

C　ブナ林の今後についての意見（抜粋）

1　徹底的に保護、育成すべきだ。

2　保護、育成のためにはマンパワーの不足が問題なのでは？、山で働く人を育成することも大切だと思う。

3　何を育成というのか。あんなに伐採して、植樹祭を行うことを育成というのか。疑問だ。

4　自然のサイクルは生態系を保って立派な森を形成してきた。人間が手だししなければ森が荒れるなど思い上がり。白神が自然環境保全地域指定になったと知り喜んだのに、県道が出来ていて開いた口がふさがらない。

　Ｃ・Ｗニコルさんの世界一のブナ林もこれまでです。残された自然林だけが頼り、手をふれずに残してください。

D　資源・観光などについて（抜粋）

1　いわゆるｚｏｎｉｎｇをするといいでしょう。奥地や源流を保護区にし、周辺の２次林は観光（といってもレジャーランドではない）や資源として利用するなど。

2　自然より資源となるものが少ない山村と自然を求めてる都会人の相互の助け合いと理解が必要。

3　ブナ林を観光に使ったらブナがだめになると思う。
4　開発の用にすべからず。
5　観光道路を通すことは絶対反対。

4　考　　察

○　ブナの特性があまり知られておらず、ブナ林に対するイメージが先行している。
○　国有林で行われている天然林施業が知られていない。
○　参加者全体として、保護一辺倒という意見は少なく、保護・育成・活用のバランスを重視している。
○　参加者はもっとブナについて勉強したいと考えており、スタッフ全員にもっと専門知識が求められる。

5　まとめ

今回のアンケート結果をみて、ブナ林に対する国民の関心の深さには驚かされた。これから益々自然環境に対する関心は高まっていくことは明かですし、同時に国有林をとりまく状況もより一層厳しいものになっていくと思われる。今回の植樹祭参加者の中でも伐採イコール自然破壊という図式が少なからずあり、国有林がどういった基準で「伐採」し、その後どのように「山づくり」をしているのかがあまり知られていないことから誤解されている面が多々見受けられた。

このようなことから、今後、国有林というものを知ってもらい理解を求めていくためにも、国民の声を聞くことから始めて、あらゆる機会をとらえてＰＲに努めていくことが益々必要になってくると思われる。また、同時に専門家として見られている訳ですから、より一層私達も勉強していくことが必要なことであると考える。